

【実行委員長報告】

西谷源展先生退任記念講演会・祝賀会開催される

実行委員長 藤田 透(45 回生)

平成 26 年 7 月 19 日に、京都ホテルオークラにおいて今年 3 月末で退任された母校の西谷源展先生の「退任記念講演会および祝賀会」が盛大に開催された。この会は、学友会の主催で母校の卒業生と教職員に限定し、北は北海道、南は沖縄までの 275 名が出席して行われた。

記念講演は山田勝彦名誉会員の司会で始められ、講演に先立って西谷先生の詳細な経歴・業績が紹介された。山田先生にとって、西谷先生は教え子であると同時に当時の専任教員は二人だけであったことから同志でもあり、感慨も一入だったと思われる。その後、「放射線技師教育 44 年間を回想して」と題して記念講演が行われた。昭和 45 年 4 月、先生が母校卒業に続いて専任教員として赴任されて以来、44 年間の教員生活について回想された。学生時代の校名は「レントゲン技術専修学校」で、教員となられてからは「京都放射線技術専門学校」「京都医療技術専門学校」「京都医療技術短期大学」「京都医療科学大学」へと変遷を経験してきた貴重な先生であり、講演では母校の創立以来の変遷を貴重で懐かしいたくさんの写真とともに紹介された。教員生活では、後輩教員として赴任した藤本信久先生、大釜昇先生が若くして急逝されたこと、4 年制大学の開学式に日本放射線技師会会長の熊谷和正氏(41 回生)日本放射線技術学会会長の小生(45 回生)が出席したこと、夏休みを割いて開講された放射線取扱主任者第一種試験勉強会の成果で多くの第一種放射線取扱主任者を生んだこと等々について述べられた。

記念講演会に引き続いて、祝賀会は笠井俊文副実行委員長(49 回生)岡田絵里菜学友会理事(短大 17 回生)の司会で開催された。神澤良明学友会会長の開催挨拶に始まり、遠藤啓吾学長、花岡正男短期大学初代学長、高橋隆医療科学大学初代学長が祝辞を述べられた。お三方とも、西谷先生の思い出を語られ、短期大学・大学における掛け替えのない存在であったことを紹介された。

その後、出席者の最長老である小倉佐助氏(26 回生)の乾杯の音頭で祝宴が始まった。祝宴では、桒藤眞純前会長(43 回生)田中庸二氏(44 回生)小田毅弘氏(49 回生)山口和也氏(52 回生)竹澤正人氏(61 回生)高橋一男氏(短大 1 回生)仲田篤夫氏(短大 3 回生)霜村康平氏(短大 11 回生)大北哲也氏(大学 4 回生)の各氏が、西谷先生との学び舎引っ越しで苦労した懐かしい思い出や、主任者勉強会や卒業研究指導、BBQ などのお礼の言葉を述べられた。西谷先生のテーブルは全国からの出席者が次々と押し寄せ、思い出話で歓談し記念写真を撮る光景が続いた。

祝宴のフィナーレも近くなり、森本美穂氏(62 回生)から本会を代表して記念品(豪華欧州クラシックの旅目録)が贈呈され、春日恵美氏(短大 14 回生)から花束が贈られた。その後、西谷先生から謝辞が述べられ、最後は後藤正季名誉会員の万歳三唱で祝賀会は締めくくられ、小生(実行委員長)の閉会の辞で祝宴のお開きとした。



今回の祝賀会出席者では、最多は短大3回生の22名で、他には教職員や専門学校時代の元職員の斉藤智恵子氏等の多くの参加があり、西谷先生の人望の厚さが伺えた。また、前月に送付された学友会85周年記念バッジを胸に着けた参加者が多く見られ、誇らしげに胸元を飾っていた。

275名というたくさんのご参加の皆様、参加できずに記念品料をお送りいただいた皆様に感謝します。また、開催に当たりご支援いただいた発起人、教員、学友会役員の皆様方にお礼申し上げます。

以上

* 通巻 213 号 2014 年 10 月 10 日発行 (H26-No.3) より